

未来に飛躍する「長瀬の里」

矢作北学区

YAHAGIKITA



夏目遥丘くん
(平成28年度5年生)

ぼくが考える30年後の矢作北学区の夢は三つあります。一つ目は、笑顔にあふれ元気にあいさつができる学区になってほしいです。元気なあいさつは、自分も周りの人も気持ちよく一日を過ごすことができるからです。二つ目は、かんきょうにもやさしい水素自動車や電気自動車が今よりも多く走っているということです。地球温暖化の原因となっている排気ガスを少しでもへらしておいしい空気をすいたいです。三つ目は、自分のことだけでなく周りの人の気持ちも考えられる思いやりのある人がたくさんいて、毎日楽しくすごせるようにすることです。



小林美結さん
(平成28年度6年生)

30年後は今と同じまががいいです。理由は、田んぼや神社などの自然が多いからです。そして、平和だからです。矢作北学区にはとてもやさしい人がいっぱいいます。米作りを教えてください。毎日あいさつをしてくださる方などがいて、とても明るく豊かな学区だと思います。しかし、そんなやさしい人がいなくなると、豊かな学区でなくなってしまう。だから30年後は、自分たちが今のままの豊かな矢作北学区を作っていきたいです。

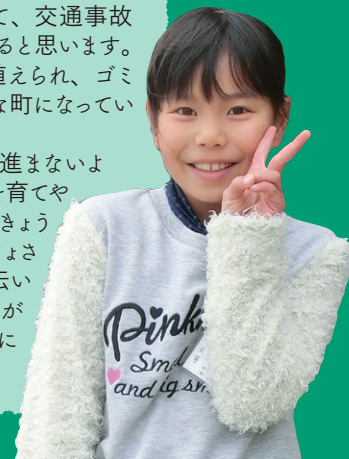
30年後の矢作北学区はどんなまち？

30年たっても交通事故や犯罪がない、みんなが楽しく暮らせる町にしたいです。病院やスーパー、町のみんながふれあう公民館がたくさんできてほしいと思います。それと矢作北学区みんなが力を合わせられるよう、いろいろなイベントを作ってほしいと思います。わたしがお母さんになっても、子どもがこの学校に通えるようにと思います。あと、「おはようございます。ごめんなさい。ありがとうございます。」というあいさつが自然に出てくる町になるといいと思います。



日比野李音さん
(平成28年度3年生)

30年後は、わたしの子どもも矢作北小学校に通っていて、道路は車道と歩道がきちんとわかれていて、交通事故がおきないようにしていると思います。今より木や花もたくさん植えられ、ゴミも落ちていない、きれいな町になっていることでしょう。少子化が今いじょうに進まないように、お母さんが子どもを育てやすいよう地いきのみんなできょう力したいです。わたしはじょうさんになって、そのお手伝いをしたいです。赤ちゃんがたくさん生まれる世の中になっているとうれしいです。



川口天寧さん
(平成28年度4年生)



編集後記

わたくしたちの学区は、学区行事に大勢の住民の皆さんがご参加いただいていることからわかるように、人と人の結びつきが強く、地域を愛する人が多い学区です。市制100年のこの機会に、こうして学区の皆さんとともに掘り起こした郷土の宝物を、これからも大切に受け継いでいきたいと思います。

〔作成委員会〕 伊奈賢司 / 松井新次 / 池本典雄 / 永田辰明 / 大場健二 / 鳥羽茂光 / 岡田順治

〔参考資料〕 長瀬今昔 / 舩越町誌 / 東大友町40年のあゆみ / 矢作町誌(大正版) / 矢作町誌 / 新編岡崎市史 矢作資料編

〔表紙写真〕 学区民でにぎわう長瀬遊歩道カーニバルと、三千人が参加した2015年(平成27)の学区防災訓練

矢作北学区のあゆみ



稚児行列を先導する長瀬樂人会。大正 江戸時代から続く長瀬樂人会時代の撮影か



戦前の矢作北小学校。右に伸びる道は岡崎街道



着物姿で先生の訓示を聞く大正時代の小学生



今はなき長瀬八幡宮の二之鳥居。鳥居の左は越野神社



木製時代の旧日名橋



1972年（昭和47）の学区全景。まだ水田が多かった

一八四八〜
一八五四年 ■ 嘉永年間
一八七三年 ■ 明治6

一八八〇年 ■ 明治13

一八八九年 ■ 明治22

一九〇二年 ■ 明治35

一九〇七年 ■ 明治40

一九一一年 ■ 明治44

一九一六年 ■ 大正5

一九一七年 ■ 大正6

一九二〇年 ■ 大正9

一九三六年 ■ 昭和11

一九四一年 ■ 昭和16

一九四八年 ■ 昭和23

一九五五年 ■ 昭和30

一九五六年 ■ 昭和31

一九五九年 ■ 昭和34

一九六三年 ■ 昭和38

一九六四年 ■ 昭和39

一九六六年 ■ 昭和41

一九八一年 ■ 昭和56

一九八五年 ■ 昭和60

一九八九年 ■ 平成1

二〇〇一年 ■ 平成13

二〇一一年 ■ 平成23

二〇一五年 ■ 平成27

願照寺17代専修が楽士を招き檀家有志に雅楽を演奏させる

森越村の長寿寺に森越義校ができる

触越村郷蔵に触越義校ができる

森越、触越両校が合併して長瀬学校となる

橋目村（森越・橋目・触越・中園）、大友村（東大友・西大友）、北野村が合併し碧海郡長瀬村になる

長瀬尋常小学校が現在の矢作北小学校の地に新築移転

矢作第二尋常小学校に改称。学区は8大字になる

長瀬信用販売購買利用組合が設立（JAあいち三河長瀬支店のルーツ）

長瀬樂人会が旧尾張藩楽士より雅楽の指導を受ける

暮戸く北野間の道路が開通

触越、中園、森越などに電灯がつく

矢作第二尋常小学校に二宮金次郎の銅像が建立（1942年金属類回収令により撤去）

国民学校令の公布により矢作北国民学校と改称

日名橋が竣工

矢作北小学校に二宮金次郎の石像を建立

碧海郡矢作町が岡崎市に合併

長瀬有線放送（NSB）が始まる

伊勢湾台風で日名橋が流失

流失した日名橋が再架橋される

岡崎城西高等学校が開校

安城学園女子短期大学が開校（現在の愛知学泉大学）

矢作北中学校が開校

中園町の熊野神社が火災で焼失（1983年再建）

矢作北小学校より分離独立して北野小学校が開校

矢作北小学校に雅楽部が発足

矢作北小学校雅楽部が文部科学大臣奨励賞を受賞

第一回長瀬遊歩道カーニバルが開催

矢作北学区が内閣府より防災計画モデル地区に認定



2015年（平成27）の学区防災訓練

DATA



□人	□	13,155人
	男性	6,806人
	女性	6,349人
□世帯数		5,291世帯
□面積		2.58km ²
[2016年7月1日現在]		

学区の古代から近世まで

矢作川中流域の沖積地にある矢作北学区一帯は、歴史の話題に富んだ里です。この学区にまつわる歴史上の重大事を挙げてみましょう。

古代には、東征に向かう日本武尊が矢作川で矢を作った故事、壬申の乱で敗れた大友皇子が今の大友に逃れ来た伝説などが伝わっています。

碧海荘に属していた平安時代の1063年（康平6）には、源頼義が長瀬八幡宮を創建しています。1181年（養和1）に源行家と平重衡が矢作川を挟んで衝突しました。鎌倉時代になって足利義氏氏が地頭として三河各地を支配したとき、碧海荘はその四男・義継が領主となり、森越に館を構えたことから「長瀬太郎」と呼ばれました。1335年（建武2）の矢作川の戦いでは、新田義貞と足利尊氏が激戦を繰り広げました。

戦国時代になると松平氏が領主となります。この地域発祥で阿部氏の祖、阿部忠正が松平氏を補佐し長瀬を治めました。また阿部氏五代正勝は古くからの家康の家臣として苦楽を共にしました。岡崎市と広島県福山市は親善都市提携を結んでいます。が、その阿部氏の子孫が江戸中期から幕末まで備後福山藩十萬石の藩主を務めたという縁もあります。

工業化と学区の発展

戦時中、現在の北野学区に岡崎海軍航空隊の飛行場が建設されました。その跡地は1962年（昭和37）に三菱自動車のテストコースとなり、これを機に多くの工場が学区内に誘致されました。また工業化の進展とともに、学区内に広がっていた農地は1973年（昭和48）頃から急速に宅地化され、農村から住宅地へと大きく変貌を遂げました。人口の増加に伴い1985年（昭和60）には北野小学校が分離開校しています。

現在の学区は、市内有数の人口増加地域となっています。



学区の大工場のひとつ、ポンプ製造大手の川本製作所

矢作北学区 長瀬の里マップ



A 長瀬八幡宮

1063年(康平6)創建。桶狭間の合戦で織田軍に追われた松平元康(家康)が、八幡宮の森から現れた鹿の導きで矢作川を渡り無事に大樹寺まで辿りつけたことから、徳川氏により庇護された

COLUMN

長瀬八幡宮所蔵の「神代小町絵巻」



家康が鹿に助けられた礼として長瀬八幡宮に奉納されたもので、小野小町の生涯が描かれています。現在は岡崎市美術館博物館に保管され、レプリカが社務所と矢作北小学校に展示されています。



B 長瀬八幡宮二之鳥居跡

1990年(平成2)の台風で倒壊するまで、江戸時代後期建立の大鳥居があった



C 願照寺

親鸞聖人の弟子である専信房専海法師(せんしんぼうせんかいほうし)の開基。かつて所蔵していた親鸞聖人像「安靜の御影」は国宝に指定され、現在は西本願寺に納められている

COLUMN

中園町出身の偉人
岩槻信治



生家に建つ彰徳碑と胸像



1889年(明治22)生まれ
1948年(昭和23)に死去

かつて三河に「いもち病」が蔓延していました。農業技師の岩槻信治は、研究を重ねて米の品種改良に努め、いもち病に強い品種を作り出すことに成功。この地域の米づくりの礎を築いたことから「米の神様」と呼ばれました。没後、岡崎市名誉市民に選ばれています。



E 長瀬遊歩道

北野幹線水路のバイパス化によりできた空間を、住民のワークショップから提案された意見をもとに整備し、矢作北学区内は2009~10年に完成。全長2kmに及ぶ



I 薬師寺

本堂の前に大正時代建立の立派な常夜燈が建立されている



J 大友皇子御陵碑と詩碑

1986年(昭和61)に大友皇子御陵と伝わる塚に建てられていた「御陵碑」を東大友神明社の南から移設したとき、皇子の詩碑も建立した



F 土地改良記念碑

1942年(昭和17)に矢作北学区・北野学区・安城市北東部にまたがる土地区画整理事業が勤労奉仕により実施。その完工記念碑が白山神社境内にある



G 町祠堂

橋目本町では、家の墓とは別に故人を「町祠堂」に祀り、毎年2月に町民でおまいりする風習がある。現在は公民館内に町祠堂が設けられている



H 大友天神社

672年の壬申の乱で自害した大友皇子が、実は三河に逃れてきたとの伝説がある。皇子はこの地で死去し、従者の長谷部信次が慰霊のためにこの神社を創建したとの社伝が残る

COLUMN

矢作北学区の別名
「長瀬」とは？

鎌倉時代の文書に「碧海荘18か所の一つとして「長瀬郷」の名が記されており、720年以上の歴史を持つ由緒ある地名です。矢作北学区と北野学区がその範囲。大昔は矢作川の流路が定まっておらず、幾筋もの浅瀬がこのあたり一帯に長く伸びていたことが由来との説も。現在は長瀬遊歩道、長瀬八幡宮、JA店あいち三河長瀬支店にその名が見えます。

矢作北学区の雅楽と祭り

歴史ある「長瀬楽人会」や小学校の雅楽部がある私たちの学区は、岡崎でもっとも雅楽が盛んな地域です。雅楽にまつわるあれこれとともに、各町の祭りを紹介します。

舩越町 長瀬楽人会

舩越町内を散策していると、どこからともなく聞こえる龍笛、笙、箏、筆簾…。思わず足が止まります。これは長瀬楽人会の皆さんが演奏を練習している音です。

長瀬楽人会は、江戸時代末期の嘉永年間（1848～1854）に舩越村の願照寺第17世結城専修住職が、名古屋から楽士を招いて村内の檀家有志に雅楽を習わせたのが始まりと伝えられています。以来150年以上にわたり子や孫、友人、さらにその子孫へと伝承され、今なお「雅楽のまち」として広く知られています。矢作北小学校雅楽部の発足当初から指導を手伝い、近年は雅楽部卒業生が楽人会会員とともに演奏する機会も増えています。



矢作北小学校 雅楽部

長瀬楽人会の培ってきた伝統を子どもたちにも受け継いでもらおうと1989年（平成1）に雅楽部が発足したのはじまりです。楽人会の指導のもと歴代部員たちは熱心に練習し、学校だけでなく地域行事やイベントでも演奏を披露し、好評を博しています。岡崎市教育文化賞をはじめ、受賞実績も豊富です。

中園町 熊野神社 祭礼の巫女の舞

〈式典は10月4日、祭礼はそれに近い土・日曜〉古くから雅楽演奏による巫女の舞が奉納されてきました。1983年（昭和58）に拝殿が再建されたのを機に、それまで他町の方に支援をお願いしていた横笛の演奏を氏子たちで行うようになりまし。平成18年頃からは子ども会が演奏を担当しています。近年はリコーダー演奏の子どもたちも加わって、練習の成果も上々で祭礼を盛り上げています。



懐かしの「パッカーン」おじさんも来るよ！
中園町在住、この道30数年の大ベテラン。香ばしい「ポン菓子」を祭礼会場で作って提供しています。

皆さんの町のイベントにもお邪魔しますので声を掛けください！



西大友町 大友天神社の例大祭

〈毎年10月18日〉



祭神の大友皇子（弘文天皇）は、壬申の乱（672年）に敗れて自害したと見せかけてこの地に逃れ、最後は小針に葬られたとの伝説があります。例大祭では式典前に宮司らが小針古墳に参拝することが慣例で、拝殿では巫女舞が行われます。

東大友町 ふるさと盆踊り大会

〈毎年8月のお盆〉



町民の夏の楽しみとして昭和25年頃から始まりました。20年ほど中断した時期もありましたが、1986年（昭和61）の復活後は毎年数百人が参加して大盛況です。景品の抽選も行われます。

橋目本町 毘沙門さんのお祭り

〈毎年7月10日〉



小学生のフットベースチームのユニフォームにもあしらわれるほど町民に親しまれている毘沙門さん。お祭りは江戸時代から続いており、当日は公民館でイベントも実施されます。

大会前はみんなで必勝祈願



森越町 長瀬八幡宮の例大祭

〈毎年10月第3日曜〉

長瀬地区の中心的神社である長瀬八幡宮では、神様に奉獻する幣帛を「唐櫃」に入れて運ぶ厳かな行列があり、格式の高さがうかがえます。唐櫃は2人の神職に担がれ、「棒引」の先導で行列を従えて境内に入り、神事に臨みます。例大祭では子どもみこしも練り歩きます。

私たち棒引が先導します



学区のビッグイベント！ 長瀬遊歩道カーニバル



学区に誕生した遊歩道を活用しようと、管理する学区各町で「長瀬遊歩道の会」が設立されたのを記念し、2011年（平成23）から一年おきに開催されています。水路での魚とり大会などさまざまな催しを行い、毎回多くの学区民が参加して地域に一体感をもたらしています。